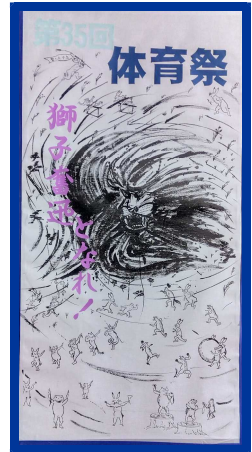


## トップアスリートに学ぶ

先月 29 日(土)中学体育祭の後、延期になっていた第 35 回高校体育祭を 1 週間遅れの 5 月 6 日(土)、無事に開催することができました。これも一重に献身的な努力を重ねた体育祭実行委員の生徒諸君と、影ながら支えていただきました保護者をはじめとする多くの皆様のお陰です。改めて感謝申し上げます。

さて、中学体育祭では、競技を始めるに当たっての開会の挨拶で 2008 年北京オリンピック競技大会の 100m × 4 リレーで銅メダル獲得に貢献した末續 慎吾さんの「競技を楽しむ意味」という話題に触れました。



今から 15 年間ぐらいからでしょうか、陸上競技や水泳などのトップアスリート達が試合にのぞむ前のインタビューで「楽しんで来ます！」と言う言葉を多用するようになったのは…。それから約 10 年、中高生も部活動における試合の前に同じような言葉を使うようになりました。

このように言葉は伝播するのですが、同じ「楽しむ」という言葉でもトップアスリートと中高生が使う言葉では意味がまったく違うのだと、末續さんは指摘しています。つまり、トップアスリートは「楽しむ」という言葉を第一人称で使ってはいないということです。では、それはどういう意味なのでしょう。皆さんにも、ぜひ考えてみてください。

末續さんいわく、「競技を楽しんで来ます」という場合、主語が一人称の場合と三人称としての使い方があり、トップアスリートたちは三人称として使っているのだ、ということです。たとえば、「今日のイチローのプレーは良かったね。こんな試合が見られるから僕は野球が好きなんだ。」という場合、楽しんでいるのは選手ではなく、試合を見ている観客なのです。このように選手たちは観客に対して「楽しみ」を与えているのです。これがアスリートの使う「楽しむ」という言葉の意味なのだ、イチローさんは教えてくれます。

選手自身が参加する試合で「楽しみながらプレーする」こと、これ

は誰にでもできることです。しかし、競技に勝てば嬉しいですが、負ければ楽しさどころではありません。悔しさや反省、残念な気持ち、場合によっては他の選手やコーチなどへの疑念も生まれることさえあります。勝利至上主義といわれるような一部の指導者からすれば、「負け試合で楽しいとは何事だ」と怒られかねません。

しかし、心身の限界まで身を削るように苛酷な練習を積み重ねて来たトップアスリートたちにとっては、本来の「楽しむ」意味とは自分自身のことではないと考えているのです。結果はどうであれ、試合を自分のこととして真摯に受け入れ、次への挑戦が始まるのです。かつて、本校でお話いただいたマラソンランナーで保護者の新宅 雅也さんも、限界まで練習を積んでいる場合に他人から「頑張れ」とは言われたくない、と語っていました。

つまり、トップアスリートにとって「楽しむ」という言葉は、自分自身のことでもなく、試合の勝ち負けでもありません。自らが取り組んだ鍛錬の成果を正々堂々と競技する場において、選手を支えくれたコーチやサポーター、そして何より観戦している観客や応援してくれるすべての人々に喜びを与えることであり、感謝の証しなのです。これが本来の「楽しむ」意味なのです。

最後にオマケ話を一つ。ここに紹介した末續さんは 40 歳を超えた今なお 100m を 10 秒台で走る実力者です。また、昨年 9 月には 90 歳代の日本選手による 400m × 4 リレーで 9 分 23 秒 29、400m × 4 リレーで 1 分 33 秒 52 の世界新記録が樹立されました。世の中には、すごい方々がたくさんいらっしゃるのです。

ともあれ ♪若者よ 身体を鍛えておけ…と。

校長 石飛 一吉